Studies on the Personal History of Shounosin Sibaki - An English Translator for the Souyu-kan, the Military Department Office of the Kaga Clan, and on His Translated Version of "Peter Parley's Universal History

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37066

日本海域研究，第45号，75-88ページ，2014
JAPAN SEA RESEARCH, vol.45, p.75-88, 2014

壮猶館翻訳方 芝木昌之進と「ハルレー地球万国暦史」について

板垣英治[1*]

2013年10月9日受付，Received 9 October 2013
2013年11月26日受理，Accepted 26 November 2013

Studies on the Personal History of Shounosin Sibaki - An English Translator for the *Souyu-kan*, the Military Department Office of the Kaga Clan, and on His Translated Version of "Peter Parley's Universal History."

Eiji ITAGAKI[1*]

Abstract

Shounosin Shibaki was born in Kanazawa in 1834. In 1857, he was employed by the *Souyu-kan* and worked under Bunpei Sikata in the reading of English books. From 1865 to 1866, he went to Nagasaki to study English under a famous teacher, Ga Noriyuki. In the first year of the Meiji era, he was a teacher of English in a private school, and then in the third year, he was employed for English educational purposes in a junior high school. In the second year of the era, he published a book, a translation of "Peter Parley's Universal History." This was, perhaps, the first book to be translated from Parley's books into Japanese. After that, and until 1888, more than thirty books, which had been translated from the same Parley's Universal History book, were published in Japan. Shibaki helped to compile a major English-Japanese dictionary by assisting in the collecting, selecting, and editing of English words. In 1874, a new English-Japanese dictionary was published by Ohya and others. It was the first time in Kanazawa that lead metal types were used to print documents. In 1886, a new English-Japanese dictionary was published by Tajiro Inami in Kanazawa. Shibaki participated again in compiling the dictionary. This dictionary was composed of about forty thousand words within 795 pages. In 1893, he died at 58 years of age. Shibaki's work contributed immensely to the promotion of English education in Kanazawa.

Key Words: Shounosin Sibaki, an English translator of *Souyu-kan*, the Military Office of the Kaga Clan, a junior high school English teacher at the East School in Kanazawa, a Japanese book translated from "Peter Parley's Universal History", an English-Japanese dictionary edited by Ohya *et al.* published in 1874, an English-Japanese dictionary, edited by Tajiro Inami, published in 1885

キーワード：芝木昌之進，壮猶館翻訳方，中学東校英語教師，翻訳書「ハルレー地球万国暦史」，英和辞書「広益英倭字典」と「新撰英蘇字敷」

[1]金沢大学名誉教授　〒921-8173 石川県金沢市円光寺3-15-16（Emeritus Professor of Kanazawa University, 15-16 Enkoji 3 chome, Kanazawa, 921 -8173 Japan）
*連絡著者（Author for correspondence）

Ⅰ．はじめに

加賀藩は安政元年（1854）1月に上柿木畠に「西洋火術方役所」を開設して，主付に大橋作之進を就けた。同年8月に名称を「壮猶館」と改めた。当時輸入された外国書の主流は蘭書であり，翻訳方には鹿田文平，安達幸之助が，校合方には蘭医師黒川良安，津田淳三，田中信吾らが就き，特にオランダ兵学書の解読を行っていた（金沢市編集委員会，1973）。彼らは長崎に留学或いは大坂・適塾に留学してオランダ語を学習した経験のある人達であった。この翻訳方には後に高峰元稑も属していた。

ここに安政4年（1857）に芝木昌之進が雇い入れられ，鹿田文平のもとで原書素読方御雇御用として英書の素読を行っていた[史料1, 2]。これまでには芝木昌之進に関する史料は少なく，如何様なる人物であったか明らかでなかった（今井，1969，1989）。

今回，『加賀藩御親翰集Ⅰ』に芝木昌之進の壮猶館翻訳方への御雇いに関する史料が見つかったこと[史料1, 2]を契機に，彼について調査をした結果，慶応元年（1865）に藩命により長崎に遊学して，英語学者何礼之の英学塾で英語を学び[史料3]，その後金沢に戻り，明治元年（1868）から「加賀藩・道済館」で英学教授を始めとして，金沢での英語教育関係に携わっていたことが明らかになった（日置，1919）。特に明治2年に，米国S. G. Goodrichの著書である幼少年向きの歴史書，Peter Parley's Universal History, biases of geographyを翻訳して，『ハルレー地球万国暦史』として出版を行っていた（芝木，1869）。さらに，明治7年（1874）に金沢で最初に刊行された英和辞書，『広益英倭字典』および明治19年（1886）に刊行された『新撰英鰊字畝』の編纂に携わっていた（今井，1969，1989）。

本稿では，芝木昌之進の履歴と英学史上の業績をまとめて解説を行った。なお，芝木の名前は，明治以後は「昌平」であったが，本稿では，すべて「昌之進」で記述した。

Ⅱ．芝木昌之進の略歴

芝木昌之進の履歴は此れまでに，今井により調査されて記載されていた（今井，1969，1989）が，十分なものではなかった。昌之進は加賀藩・御細工者芝木権平の嫡子として，天保5年（1834）に金沢で生まれた。名前は，明治以後は昌平に改めていたらしい。安政4年（1857）に定番御歩に抱えられ，御切米三十五俵を与えられ，壮猶館において鹿田文平のもとで，原書素読方御雇御用として英書の素読を行っていた[史料1, 2]。鹿田と三宅復一は権少属英学教師翻訳方であり，その元に芝木が藩掌英学教師洋書翻訳方であり，他に明石眞作と菊野七二郎がいた[史料4]。

加賀藩の旧蔵した洋書の調査結果によれば（板垣，2007），以前は壮猶館の洋書は長崎で購入され，「長崎東衙官許」の捺印のある蘭書に限られていたが，安政6年（1859）の横浜開港により，英・仏書の輸入が解禁となり，加賀藩は英書を436冊購入していた。その中には兵学書が186冊あり，鹿田，安達らの元で，これらの英書を芝木は素読していたと見られる。

慶応元年（1865）に藩命で50余名の若者が長崎に遊学した。芝木もこの中に含まれ，有名な英語学者何礼之の英語私塾で英語を学んだ[史料3]。この留学生の中には高峰譲吉，清水誠らも含まれていた（米田，2011）。同3年4月まで長崎で学んだ。

慶応3年（1867）には芝木は壮猶館翻訳方に任じられ，兵法，天文学，歴史学に関する原書の翻訳を行っていた（今井，1989）。同年6月に軍鑑方役所英書素

図1　金沢藩中学東校英学生番付（「石川県教育史」547頁より）．最下段の中央に「教師長野桂次郎，芝木昌平」と記載されている．

Fig. 1　Document list of ranking of English-course students in the East School, the high school of Kaga Clan.

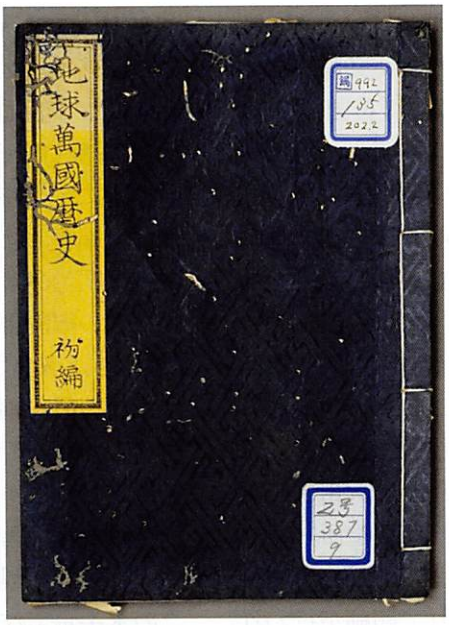

図2-1

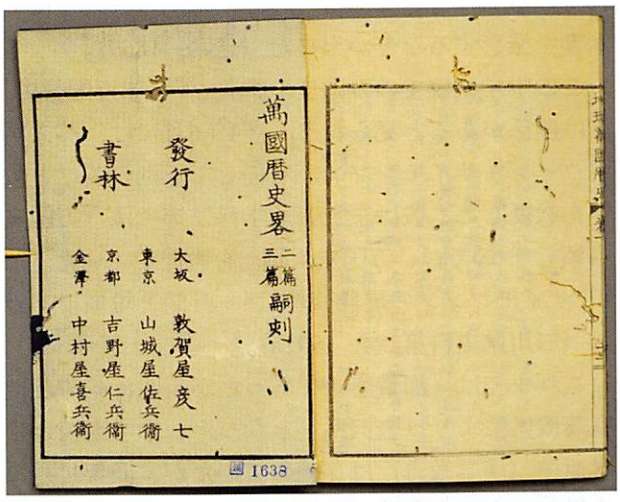

図2-3

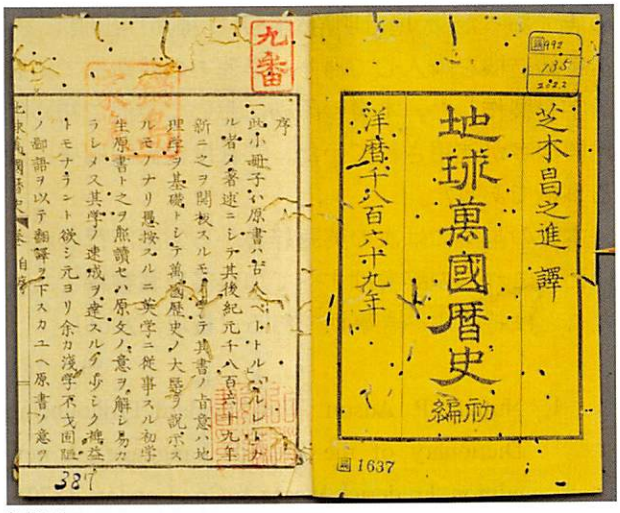

図2-2

図2-4

図2　芝木昌之進訳述「パートル・ハルレー氏地球万国暦史（明治2年）」，佐賀県立図書館，鍋島文庫蔵（図2-1：本書表紙，図2-2：標題頁，図2-3：後付け頁，図2-4：本書10冊）．

Fig. 2　Shibaki's books translated from the Peter Parley's 'Universal History' published in 1869.

読方，外国方兼務となった。

明治元年（1868）閏4月に「道済館」が金沢南町，畳屋九郎兵衛の民家に開校され，吉本順吉が招聘されて仏学・英学の教師に着任した。吉本は僅か6ヶ月で金沢を去り，代わって芝木昌之進と平田宇一が英学，菊池七郎が仏学，名越甚助が漢学，下村貫一が数学，橋健堂が習字の教授に就いた（日置，1919；石川県史第3編，1974）。

翌年の制度改正により，幼年者は「致遠館」（正則英学校）に移り，道済館に残る者は城内の「挹注館」（変則英学校）に移り，さらに明治3年12月（1870）に藩はこれらの塾をまとめて中学東校（洋学中学校，出羽町兼六園内の巽御殿）として，同月17日に開校した。本校の英語教師には岡田秀之助，変則英語教師に長野桂二郎と芝木昌之進が担当した（石川県教育史編纂委員会，1974）。

この間に芝木は明治2年に，『ペートル・ハルレー氏地球万国暦史』を訳述・刊行していた（図2）。本

書は，現在は佐賀県立図書館・鍋島家文庫に架蔵されているもののみである。今回，特別の許可を得て本書を撮影することが出来た（芝木，1869）。

この中学東校での万国史の講義と『地球万国暦史』とは関係があると見られる。翌4年6月には，英人エドウイン・サイモンソンが着任して正則の英学と数学を教授した。彼はまた普通学科二等では「万国史中類」，一等では「万国史上類」を教授していた。だが，サイモンソンの雇聘條約は6ヶ月間と短期であった（石川県史料第2巻，1972a）。

これまでは「加賀藩」であったが，明治4年7月に廃藩置県により「金沢県」となった。中学東校と中学西校（漢学教育）は存続していたが，同年11月に合併して金沢中学校が開校された（日置，1919），所が翌5年4月には石川県により旧藩設置の学校は総て廃校とされることとなり，本校は閉校された。

明治7年6月に金沢で『廣益英倭字典』が大屋愷敔，田中正義，中宮誠之蔵版で刊行された。芝木昌之進と小池精一が本書の語彙収集と編纂を行なった（今井，1969）。

その後，明治5年に芝木は海軍省に出仕しており，海軍少秘書，海軍属等を歴任，明治18年には退役して金沢に戻っていた。同21年に金沢・高岡町で英学私塾「英文学館」を起こし，英語教育を行っていた（今井，1989）。

明治18年（1885）8月に雲根堂主人・牧野一平の企画で，新たに英和字典の編纂が始まり，芝木と大木（詳細不明）が語彙の蒐集・編纂を行っていた。本字典は『新撰英龢字敷』と名付けられ，明治19年5月に井波他次郎，本間六郎（英文序文）により編纂され，金沢雲根堂版として刊行された（今井，1989）。芝木は明治26六年（1893）8月に没した。享年58才，墓地は金沢・寺町四丁目の「実成寺」にある（和田，1919）。

Ⅲ．『廣益英倭字典』の編纂・刊行

幕末から明治初期にかけて英語学習が盛んになり，英和辞書の需要も増していた。所が，これまでに流通して，また金沢・東校に架蔵されていた慶応3年刊行の堀達之助『英和対訳袖珍辞書』改訂増補版（堀，1867）では索語しても見つからない言葉が多く，また遺漏も多いことから，より語彙の豊富な辞書の出版が待たれていた（大屋ほか，1874）。この時に鹿田文平（松田，1987）を中心にして，芝木昌之進と小池精一が，『英国ノットール氏辞書』，『亜国ウェボストル氏辞書』，『亜国ヘボン氏英和語林修正』，『英国支那対訳辞書』，『英和辞書』を基に，当時の用語を，約4万6千有余を蒐輯した辞書を編纂した。これが『廣益英倭字典』である。本書は明治6年1月に官許を受けて，翌年に刊行された。この編集中に，鹿田は明治4年に他界し，芝木と小池らは徴兵されて，軍務についていた。そのために大屋愷敔も編集に加わり，校正は田川渉に頼んで編輯した。刊行の為には，大屋愷敔，田中正義，中宮誠之らによって蔵版され，活版製造所・経業堂小島到将が水牛角製活字を作成して，これを種字（父型）として鉛製活字が製作されて印刷が行われた。この水牛角で作られた活字は現存しているとのことである（石川県印刷工業組合，1968）。売捌書肆は金沢・上堤町の中村喜平の店であった。大屋は明治5年5月に神戸へ出張して，活字鋳造機を購入して帰り，早速この鋳造機で鉛製活字を製作した。本書の印刷において金沢で初めて鉛製活字が使用されていた。これは金沢印刷史に残る事柄であった。

本書の編集には次の英語辞書から索語が行われていた。これらの辞書はすべて加賀藩旧蔵書籍であったことは特記すべき事柄である（板垣，2006）。

1. Nuttall, P. Austin. The Standard Pronouncing Dictionary of the English Language. A new edition, Frederick Warne & Co., London, 1870
   『金沢学校』と捺印されている．石川県専門学校蔵書『英国ノットール氏辞書』.
2. Webster, Noah. Webster's Dictionary. An American Dictionary of the English Language, George and Charles Merriam, Springfield, Mass., 1853
   『加州軍鑑蔵書之印』『加州海軍局文庫之記章』『石川県尋常中学校』現在，石川県立泉ヶ丘高等学校蔵．「亜国ウェボストル氏辞書」は本書か次ぎの書を指す.
3. Webster, Noah. A Dictionary of the English Language, explanatory, pronouncing, etymological, and synonymous, with a copious appendix, mainly abridged from the Quarto

Dictionary of Noah Webster, rev. by Chancy A. Goodrich and Noah Porter, by William A. Theeler. G. C. Merriam, Springfield, Mass., 1867
『石川県第一尋常中学校蔵書之章』.

4. Hepbarn, J. C., Japanese-English and English-Japanese Dictionary. 3rd. edition. Z. P. Maruya & Co., Tokyo, 1886.
「亜国ヘボン氏英和語林修正」(旧版が使用されていた).

5. Lobscheid, W., English and Chinese Dictionary, with the Punti and Mandarin Pronunciation, Daily Press Offices Hongkong, 1866-1869.
「英国支那対訳辞書」石川県専門学校に架蔵.

6. American Presbyterian Mission Press, An English-Japanese Dictionary, 1869.
『和訳英辞林』. 特に附録の不定形変化動詞の活用, 略記号, 英語記号の表は, a table of irregular verbs, and a list of English signs and abbreviationを引用していた。蔵書印『金沢学校』『学校』あり.

明治初期に英和辞書は東京と大阪で殆どが刊行され, それ以外では横浜のみであった。次いで金沢で英和辞書の編集・刊行が行われたのであり, これは画期的な出来事であった。鹿田, 芝木, 小池らが金沢でこの英和辞書を編集することが出来た最大の理由は, 上に記載した様に藩政期に加賀藩が英国ノットール氏辞書, 亜国ウェボストル氏辞書, 亜国ヘボン氏英和語林修正, 英国支那対訳辞書, 英和辞書を購入して壮猶館を初め, 藩校, 金沢学校に架蔵して使用していたために, 索語に必須の英語辞書が手元に揃い, 作業が容易に出来たからである。

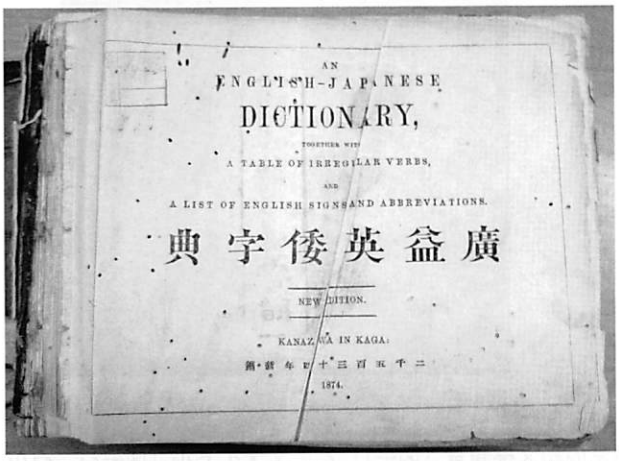
AN
ENGLISH-JAPANESE
DICTIONARY,
TOGETHER WITH
A TABLE OF IRREGULAR VERBS,
AND
A LIST OF ENGLISH SIGNS AND ABBREVIATIONS.
廣益英倭字典
NEW EDITION.
KANAZAWA IN KAGA.
明治七年歳次甲戌
1874.

図3 「広益英倭字典」の標題頁. 石川県立図書館蔵(加賀・金沢, 2534年新鐫).

Fig. 3 Title page of a Useful English-Japanese Dictionary edited by G. Ohya , M. Tanaka, and S. Nakamiya published in 1874.

Ⅳ. 『新撰英和字典』の編輯・刊行

明治19年1月に井波他次郎纂訳で『新撰英和字典』が, 雲根堂主人・牧野一平で発兌して, 金沢・尾張町48番で発売された(井波, 1886)。本書の自序によれば,

> 東京大学外山正一先生嘗て我邦今日の急務を論じて曰く, 其一は漢学を廃するにあり, 其二は我邦人をして普通に西洋語を学ばしむにありと, 而して就中, 英語を学ぶは他国語を学ぶに比して緊要にして, 且つ利益ありと, 是故に我邦人たるものは勉めて今日普通の英語に通暁し, 其書を読み, 其知識を受け之を実践に応用せざるべからず。然り而して外国語を学ぶには, 自国と他国の合訳字典を要するは, 此れ必然の理なり。雲根堂主人此に感あり。

牧野は新たな辞書の必要性を痛感していた。しかし, なかなかその意思を決めることは出来なかった。井波は牧野からこの話を耳にして, 自分もその意のあることを伝えた。その後:

> 英人「ロブスチード氏」英華字典を原本とし更に米人「ウェブストール」氏大字典, その他五十余部の諸書を渉猟し, 八月の初始めて稿を起こし, 焚膏継晷に継ぎ刻苦勵精之を勉む。而して学友大木, 芝木昌之進の両氏の毗補浅少にあらず, 訳成るに従ふて, 永山鉄男, 三宅少太郎二君の校閲を経て, 而して後之を刷印せしめ, 遂に十二月の中ばに至り其成功を得たり。
> (『新撰英和字典』の自序より)

英華辞典, ウェブスター大辞典など多数の書籍を調べ, 8月に原稿を書き始めた。さらに大木(詳しくはわからない), および芝木昌之進にも援助を頼み,

永山鉄男と三宅少太郎に校閲を依頼した。

『新撰英和字典』の企画・編集スタッフは：

井波他次郎　編纂，和文序文
本間六郎（石川県専門学校教諭）　英文序文
大木（不詳）と芝木昌之進（私塾経営）
編纂助力者
三宅少太郎（石川県専門学校漢学助教諭）
校閲者
永山鉄男（私立金沢学校英学教師）　校閲者

であった。印刷は前記の『広益英倭字典』と同じ人物（牧野一平）の経営する金沢・経業堂印刷で行われた。

本辞書の内容は次の通りである。

語数　五万有余，哲学，科学の新語・新訳一万語とあり，そのうち哲学約三千語，宗教，数学，心理学，論法，文法，政理学，法理学，理財学，社会学　三千語，物理学　一千語，化学　約一千語，生物学用語（動物学・植物学）約一千語，地質学用語，鉱物学用語，梵語，道議学（道徳学）等は総てで一万語を収録した。

本書中所用略語解は次ぎの様である。

a. 形容辞，*adv.* 副辞，*art.* 冠辞，*conj.* 接続辞，*interj.* 間投辞，*irr.* 不規則（動詞），*n.* 名辞，*part.* 分辞，（現在分詞，過去分詞），*pers.* 人辞，*pl.* 複数，*prep.* 前置辞，*prel.* 過去，*pron.* 代名辞，*sing.* 単数，*v.* 動辞，*vi.* 自動辞，*vt.* 他動辞．辞は詞を意味する。

編纂の参考に供した辞書は次のものであった。

1. 英人「ロブスチード氏英華字典」（1866-1869）
2. 米人「ウエブストール氏大辞典」（1884）
   本書は石川県専門学校には架蔵されて居なかった（板垣，2004）
3. 英人「ナッタアル氏英語辞典」二種（1870）
   『金沢学校』と捺印されている。石川県専門学校蔵書
   二種については不詳

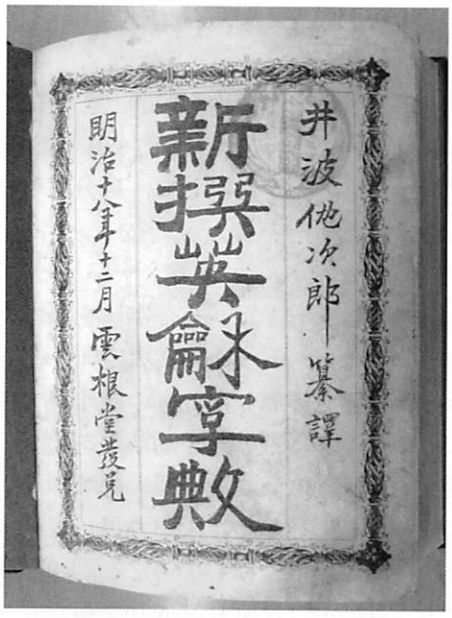

図4-1

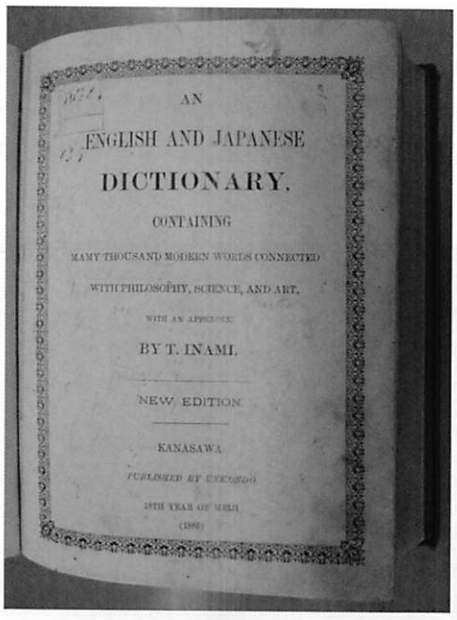

図4-2

図4　井波他次郎纂訳，「新撰英倭字典」明治18年12月雲根堂発兌の和文標題頁（図4-1）と英文タイトル（図4-2），石川県立図書館蔵．本書は黒褐色革製クロス装厚表紙の洋装本で，縦23.5cm，横17.5cm，厚さ4.8cm，であり，本文766，見出し語数約4万，総頁数795頁である．

Fig. 4　Title pages of "New English-Japanese Dictionary" edited by T. Inami, published in 1885 (Fig. 4-1: title page in Japanese, Fig. 4-2: in English).

4. 米人「ヘプルン氏著英和語林集成」(1867)。
5. 米人「ヘプルン氏和英語林集成」(1872)(和英・英和字典，1873)。
6. 英人「ウエルレム・スミス氏増補英国言語講義」(1866)。
不詳である。

其の他に50余部の辞書を参考資料とした。無論，前記の『広益英倭字書』を参考とするところも多くあった。

本辞書の現在数は6冊のみで，金沢に4冊，国会図書館に1冊，実践女子大学図書館・短期大学図書館に1冊の架蔵が確認されている（今井，1989)。

本辞書の編纂者井波他次郎について，資料よりまとめて記す（今井，1989)。

慶応元年（1865）2月23日，金沢の紙商・石王孫平の二男に生まれる。金沢木倉町の平民井波太三郎の養子となるが，明治17年12月15日養父死亡により，井波家に入籍・家督を相続した。数え年20才頃に，木倉町62番地で既に私塾を開いていた。彼は小学校で教育を受け，さらに私塾で英語，漢文，数学を学んだらしい。詳しいことはわからない。彼の向学心により，多くの事柄を学んでいた。専門的な学校での教育は受けていなかったが，私塾を木倉町（養父の住所）で開き英学を教え，明治18年頃には六枚町46番地で塾を開き，英和辞書の編纂を行って居た。

明治18年8月からこの編纂を始め，翌19年1月に出版にこぎ着けていた。その後，彼は自分の英語塾の経営を行い，さらに雲根堂の援助のもとに金沢・松原町で英・漢・数学の講習教授を行っていた。明治30年代の半ばに井波一家は東京に移り，東京市江戸川区小岩に住み，私立学校「甲津学舎」で教師をしていた。昭和11年2月26日に病死した。享年72才であった。墓所は中野区沼袋明治寺横の密蔵院墓地にある。

印刷・発行人：

雲根堂主人（発売所・金沢・尾張町84番）旧加賀藩足軽の横枕清七が，廃藩後に金沢・材木町で開業した書肆，明治10年の西南戦争の後に，尾張町に移り「雲根堂」と名乗り開業した。ところが事業に失敗して，牧野一平に事業を譲り，出版事業を行い，英和字典の出版を行った（図5)。

雲根堂は明治18年5月創刊の雑誌『金城新誌』を発行していた。本誌にこの辞書の発売予告の広告をしていた。

明治18年9月12日の予約申込広告であり，

石川県専門学校教諭本間六郎先生序文
同漢学助教諭三宅少太郎君，私立金沢学校英学教諭永山鉄男君校訂
井波他次郎氏纂訳
●新撰英倭字典，●附専門学語，●仮綴全一冊
●紙数凡八百ページ，●字数五万余
●五百部限予約　特別廉価金壱円六拾銭，内予

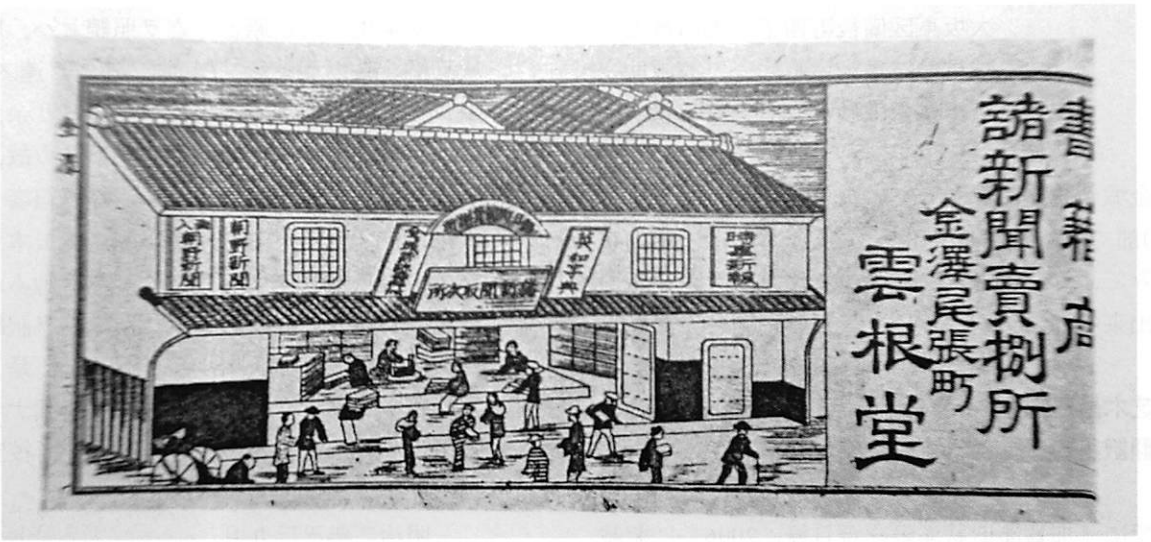

図5　雲根堂の絵図．「石川県下商工便覧」川崎源太郎著，『石川県下商工便覧』石川県下加賀国金沢区廼部，明治21年，金沢市立玉川図書館．近世史料館蔵．「英和字典」の広告板が画かれて居る．

Fig. 5　An illustration of the front of Unkon Do' s book store.

廣告

詩文添削 文二篇詩三首以上随意申受謝義○傑作托名家謝義○郵税自辨●宮城縣刈田郡宮村 佐藤楢

●出版君肆 金澤尾張町 雲根堂

新撰英倭字典 井波他二郎氏纂譯

●三百部限改正豫約特別廉價壹圓●改正豫約内豫約前金壹圓●出版期限本年十二月十五日

約申込期限明治十八年十一月三十日限

右金城新誌第十七號以來毎号廣告致候處期限中十月限ニ五百部ノ豫約滿員ノ上猶陸續申込有之候ニ付這回更ニ三百部ノ增印刷シ本月中ニ豫約申込ヲ諸シ紙幅部數少數ノ為メ印刷料隨テ增加スルハ不得止ノ次第ニ付前豫約價壹圓六十錢ヲ壹圓ニ改正致候間豫約御望ノ諸君ハ至急申込有之度候也

約前金六拾錢

●予約申込期限本年十月卅一日限出版期限同年十二月十五日

●本書見本並予約方法書等御望ノ諸君ハ郵券弐錢御投送次第進呈

明治十八年九月　石川県金沢区尾張町八十四番

○出版書肆並予約申込所　雲根堂

予約申込所　東京銀座四丁　博聞社

大坂東区備後町四丁　梅原亀七

岐阜県岐阜米屋町　三浦源助

富山県富山砂町　真田善次郎

図6　「金城新誌」第25号（明治18年11月7日）に掲載された「新撰英和字典」の広告．石川県立図書館蔵．

Fig. 6　An advertisement of the New English-Japanese Dictionary on a magazine 'Kinjyo Sinsi' dated on the 7th of November 1885.

『金城新誌』に掲載していた広告には，本書は限定300部であると記している（図6）。本書は記載内容からみて，『広益英倭字書』の改訂増補版と考えることが出来る。

V．芝木昌之進とPeter Parley's Universal Historyの翻訳書

すでに『加賀藩旧蔵洋書総合目録，2006』に記載した様に，加賀藩は辞書および歴史学及び地理学洋書を多数所有して，壮猶館，学校（藩校），金沢学校と引き継がれて英語教育，欧米の情報研究に利用していた（板垣，2007）。芝木は壮猶館翻訳方に付き，さらに慶応元年に長崎に遊学して英学習業を行い，英書の解読に長けていた。一方，Peter Parley's Universal History, on the basis of geography. Ivison, Blakman, Talors & Company, New York, 1872.は，金沢学校に架蔵されていた。さらに，明治9年に開校した啓明学校の英語学の教則の教科目及び使用教科書には，2年後半期の史学では外国人教師による「ハーレイ氏万国史」の伝習があり，同2年前半期にも同書を使用しての講義があった。甲部上等の講義においても，3年前期の史学では，「ハーレイ氏万国史」の伝習講義が行なわれていた（石川県史料第2巻，1972b）。

この様な環境において，芝木は明治2年に『ペートル・ハルレー著，地球万国暦史』（大坂敦賀屋）を出版していた（図2）。これは間違いなく『Peter Parley's Universal History』を原典として（図7），全国に先駆けて訳述したものである。この翻訳書は，現在は10冊が佐賀県立図書館にのみ架蔵され，鍋島家蔵および藩校「弘道館」の印記がある。芝木の本書の序文を次ぎに示す。

序

一此小冊子ハ，原書ハ古人「ペートル」「ハルレー」ナル者ノ著述ニシテ，其後紀元千八百六十九年，新ニ之ヲ開板スルモノニシテ，其書ノ旨意ハ，地理学ヲ基礎トシテ，万国歴史ノ大槩ヲ説示スルモノナリ。愚按スルニ，英学ニ従事スル初学生（ハ）原書ト之ヲ照読セハ，原文ノ意ヲ解シ易カラシメ，又其学ノ速成ヲ達スルノ，少シク裨益トモナラント欲シ，元ヨリ余カ浅学不才固陋ノ鄙語ヲ以テ，翻訳ヲ下スカ故，原書ノ意ヲ誤訳スルモ圖ル可ラス。軽忍粗妄ノ罪遁ル可カラストイヘドモ，業ヲ廃スルモ本意ニ非ラス。由テ唯公務ノ暇ニノミ，業ヲ勉ムルナレハ急成シ難シ。今此教導（ノ）総論ヲ訳畢シ，次テ亜細亜州論ヲ訳スルトイヘドモ，是又僻陋ノ文雅ナル事ナシ，又訳字ノ謬誤遺漏ナキニシモアラ子ハ，冀クハ読者之ヲ許シテ，校正ヲ加ヘハ，余カ幸セ又甚シトス。

明治二年己巳九月

芝木昌之進　誌

（句読点を挿入した）

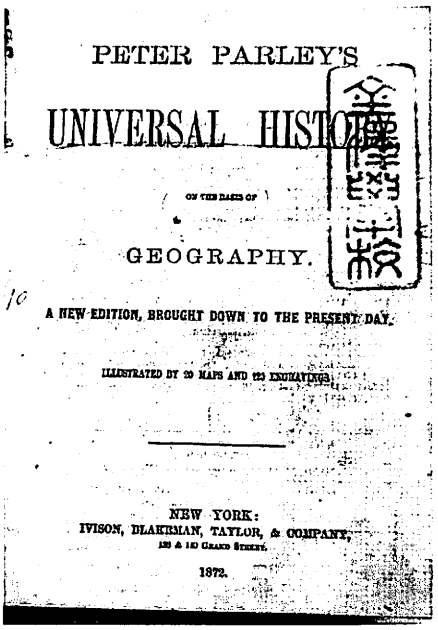
PETER PARLEY'S
UNIVERSAL HISTORY
ON THE BASIS OF
GEOGRAPHY.
A NEW EDITION, BROUGHT DOWN TO THE PRESENT DAY.
ILLUSTRATED BY 29 MAPS AND 123 ENGRAVINGS.
NEW YORK:
IVISON, BLAKEMAN, TAYLOR, & COMPANY,
138 & 140 GRAND STREET.
1872.

図7　ピーター・パーレーの万国史，原典（1872）の標題頁．加賀藩の購入したもので，藩校に架蔵されていたことを示す「金沢学校」の印影を残している．芝木の翻訳した書籍は本書より先の出版年度のものである．石川県立図書館に1冊架蔵されている．

Fig. 7　Title page of the original book of 'Peter Parley's Universal History' (1872).

この序文から，芝木の意図していた事柄を理解することができる。それは英学の初心者がUniversal Historyを解読する時の手助けのために，本書を作成したとのことである。英和辞典を容易く入手できない時代であり，英語を学ぶ為には直訳万国史が必要であった。なお，芝木が翻訳して初編に掲載したのは，原書の第一章から第五章までの緒言の部分であった。これは地理学を元にして万国の歴史を学ぶ姿勢を述べたものであった。「次テ亜細亜州論ヲ訳ス」と記述しているが，これは出版されていない。

此の当時，金沢には万国史の翻訳のために多くの参考資料が存在していた。これらは次の書籍である。

辞　書

1. American Presbyterian Mission Press, An English-Japanese Dictionary, Shanghai, 1869.（和訳英辞林，英和辞書）「金沢学校」，「学校」の蔵書印が捺印されたものが3冊架蔵されていた。
2. Webster, Noah, A Dictionary of the English Language. G. & C. Merriam, Springfield, Mass. 1867.（ウエブスター絵入り辞典）
3. Webster, Noah, An American Dictionary of the English Language. J. B. Lippincott, Philadelphia, 1867.「壮猶館」，「学校」，「金沢学校」の蔵書印が捺印されている。（ウエブスター米国版英語辞書）
4. Holtrop, John, Englisch en Nederduitsch Woordenboek van J. Holtrop. J. van Eveld Holtrop, Oordrecht en Amsterdam, 1823.「加州軍鑑蔵書之印」が捺印されている。（ホルトロップ氏英蘭辞書，蘭英辞書）など

歴史書

1. A.F. Tytler, Elements of General History, Ancient and Modern, 1866.
2. W. C. Taylor, Manual of Ancient and Modern History, 1867.
3. H. G. White, Elements of Universal History, 1868.
4. W. Chambers, & R. Chambers, Modern History, 187-.

などの基礎的な歴史書があり，さらに，欧羅巴史（7種），英国史（S. G. Goodrich, A Pictorial History of England, 1870を初め5種），米国史（S. G. Goodrich, A Pictorial History of the United States, 1867を初め6種），仏国史（S. G. Goodrich, A Pictorial History of France, 1868など），伊太利亜史（S. G. Goodrich, A Pictorial History of Ancient Rome, 1870など）等の豊富な歴史入門書が手元に存在していた。

地理書

1. W. Hughes, A Child's First Book of Geography, 1854. S.S. Cornell, A.S. Mitchell, F. Goldsmithらの地理入門書が金沢学校に架蔵されていた。さらに，地図類も十分に架蔵されていた（板垣，2007）。

また，人的にも恵まれ，鹿田文平を始め，安達幸之助，三宅復一，岡田秀之助らの教授を受けることができたと考えられる。この様な恵まれた環境のもとで，芝木はパーレー万国史の翻訳を行い，大阪の敦賀屋九兵衛により版木が作られて，明治2年に出版した。そして，金沢では中村屋嘉兵衛の書林で販売されていた（図2）。この書林は『広益英倭字書』を

表1　Peter Parley's Universal Historyの翻訳書一覧，明治元年から明治21年までに出版された翻訳書.
Table 1　List of books translated from 'Peter Parley's Universal History' from 1868 to 1888 in Japan.

	書籍名	翻訳・著述者	出版社	刊行年	収蔵図書館名	備考
1	「地球万国暦史」	芝木昌之進訳	大阪敦賀屋	明治二年	佐賀県立図書館	
2	「万国歴史直訳」初編　（標題頁欠）	西村恒方訳	東京・千成楼蔵版	明治五年二月	近代デジタルライブラリー	
3	「万国歴史直訳」	西村恒方訳	東京・千成楼蔵版　紀國屋徳三	明治五年	筑波大学附属図書館	
4	「巴來萬國史 上」	牧山耕平訳，内村耿之介校	弘令社，文部省御蔵版翻刻	明治九年三月	近代デジタルライブラリー	
5	「巴來萬國史 下」	牧山耕平訳，内村耿之介校	弘令社，文部省御蔵版翻刻	明治九年	静岡県立図書館蔵	
6	「巴來萬國史 全」	牧山耕平訳	京都・大谷仁兵衛等，文部省	明治十年二月	近代デジタルライブラリー	4冊　和紙.
7	「巴来万国史字解　全」	奥田栄世編輯		明治十一年	近代デジタルライブラリー	
8	「畫入万国史略字引」	永田方正編，加東秀三郎図畫	大阪書林，岡田茂兵衛蔵版	明治十一年	近代デジタルライブラリー	
9	「巴来万国史字解」	幕内畑次郎，本多采雄編輯	一貫堂発兌	明治十二年	近代デジタルライブラリー	
10	「画入万国史略字引」	福原有因編輯	大阪・華井ちく出版	明治十二年	近代デジタルライブラリー	
11	「パリー氏万国歴史字畫」	中村愿訳述	攻玉社間，中村氏・松井氏蔵版	明治十六年四月	近代デジタルライブラリー	4冊
12	「ピートル・パーリー万国史独稽古」羅馬之部	眞野秀雄抑訳	東京・競錦堂	明治十六年	近代デジタルライブラリー	
13	「ピートル・パーリー万国史直訳字畫	中村愿訳述	攻玉社間，中村氏・松井氏蔵版	明治十七年	近代デジタルライブラリー	
14	「パーリー氏萬國史直譯 上巻」	栗野忠雄訳述	金章堂，日新館蔵版			
15	「パーリー氏萬國史直譯 下巻」	栗野忠雄訳述	金章堂，日新館蔵版	明治二十年	石川県立図書館蔵	
16	「容易独習万国史直訳」第48－107章	戸代光大翻訳	中井堂	明治十八年	近代デジタルライブラリー	
17	「実用万国史直訳」	岡本信訳述	坂本金次郎出版	明治十八年	近代デジタルライブラリー	
18	「巴來萬國史　上」	牧山耕平訳，内村耿之介校	東京・新古堂，文部省御蔵版	明治十九年	国会図書館蔵	改訂版
19	「政正増補，万国史直訳」	木村瀧訳	同盟出版書肆	明治十九年	近代デジタルライブラリー	
20	「彼得・巴来万国史直訳」下巻	牛山良助訳 実学会英学校校閲	成文堂	(明治二十年六月	東京大学総合図書館　近代デジタルライブラリー 熊本大学附属図書館蔵	
21	「万国史直訳」	小峯正意訳	東京・二書房蔵	明治二十年	近代デジタルライブリー	
22	「正則改正・万国史直訳」	中尾栄訳述	大阪書房　英文館	明治二十年	近代デジタルライブラリー	
23	「英語階梯・パーレー万国史解釈」	品田太吉著	嚶鳴館蔵版	明治二十年	近代デジタルライブラリー	
24	「万国史独案内」	小笠原長次郎訳	大阪・三書房出版	明治二十年	近代デジタルライブラリー	
25	「万国史直訳」	水沢郁訳	大阪，訳書出版書房	明治二十年	近代デジタルライブラリー	
26	「改正パーレー万国史直訳」	桜井鎌造直訳	書肆東雲堂出版	明治二十年	近代デジタルライブラリー	
27	「万国史直訳」	藤田治明訳	松成堂出版	明治二十年	近代デジタルライブラリー	
28	「巴来氏万国史直訳」	橋詰蔵治訳	金章堂	明治二十年	近代デジタルライブラリー	
29	「独習解釈・パーレー万国史直訳」	品田太吉著訳	嚶鳴館蔵版	明治二十一年	近代デジタルライブラリー	
30	「PARLEY.萬国歴史」	佐藤精一郎翻訳，杉浦重剛 井上十吉校閲	有鄰館蔵版	明治廿一年八月	近代デジタルライブラリー	
31	「パーレー万国史」英学生文庫、第九篇	紀太藤一訳注	木田吉太郎発行	大正四年	近代デジタルライブラリー　(欧羅巴の部二)	

注：8，9，11は本書の英単語のための和訳字書
7，10は翻訳書の難解な言葉の平易な言葉への字書

販売した上堤町の中村喜平の書肆と同じであると見られる。これが画期的な出来事であったことが次の事実から確証される。本書の刊行以後に，パーレー万国史は次々と形を変へ，品を変えて，表1に示した様に，明治21年までに約30種におよぶ翻訳書や本書のための辞書などが出版されていた。

ピーター・パーレイ著Universal History，は幕末から明治初期に多数冊が輸入され，全国の小・中学校で使用されていた（宮永，1999）。この結果，明治20年に「パーレー万国史」（1874年版）が小峰正意によって翻訳され，「万国史直訳」が出版された（小峯，1887）。

本書の第31章に「此細小ナル本，其レハ今汝ガ勉強シツツアル処ノ此細小ナル本ノ，各々ノ出版社（本屋）ガ「パーレー」ノ万国史ノ二，四，六百（部）ノ写シニ向ツテ，遙カ遠離サレタル日本ヨリ命令（注文）ヲ受取リシ故ニ」とあり，筆者Goodrich自身が，日本から万国史の勉強のために多数冊の注文を受けた事に驚き，本書に新たにこの文章を追加していた（植村，1980b）。

本書はSamuel G. Goodrichの著作であり，For the use of familiesの場合にはペンネーム，Peter Parleyを使用して刊行していた。Goodrichの著作には，英国史，仏国史，米国史などがあり，歴史，英語のテキストとして石川県立啓明学校，県立専門学校でも使用されていた（板垣，2012；今井，1977）。

Goodrichは子供向けの教養書の刊行にも熱心であった。成人向けには，A Pictorial History of Ancient Rome，A Pictorial History of the United States，A Pictorial History of France等があり，加賀藩藩校，及び金沢学校などで購入されていた。明治11年の石川県中学師範学校「中学生徒仮教則」には，使用教科書として英文の万国史（パーレー氏万国史），英国史（グードレッチ氏英国史），仏国史（グードレッチ氏仏国史）が上げられていた（石川県立図書館，1972 b）。さらに，大聖寺藩の時習館においても「パーレー氏万国史」が使用されていた。

S. G. Goodrichは，1793年8月19日に米国Connecticut

州の Ridgefieldで生まれた。Hartford, Bostonで出版業を営み，多くの書籍を出版していた。アメリカの教科書を最初に著作した人とも云われている。彼の歴史関係の著作が幕末・明治初期に我が国に大量に輸入されていたのである。

このUniversal Historyは歴史，地理の啓蒙書であり，その内容を簡単に記すと，

上　巻

序文，1章～5章：気球での世界の旅に始まり，歴史，地理，その他の解説，世界は陸と海から成り立つこと，アジア，アフリカ，その他の国々の住人，そして世界の人種について触れている（この部分を芝木が翻訳した）.

6章～37章：アジアの歴史と地理を語っている。アジアの題言があるが，ノアの箱船から，バベル，アッシリア大帝王，セミラミス女王，ユダヤに関する章，エジプト人奴隷，ユダヤ人の放浪，(23章まで)，ペルシャ王，クセルクスのギリシャ遠征，等（27章まで）であり中東の古代史である.

28章：古代中国史，29章：中国皇帝，近世史，30章：中国の町，中国人の作法，31章：日本史（3頁のみ），32～34章：アラブなど中東の国，36～37章：アジア史のまとめとありアジアの範囲が広く取られている.

38章～47章：アフリカ史。アフリカ，エジプト，プトレミスとクレオパトラ，エジプト古代史，エチオピア，バーバリー諸国（アフリカ地中海沿いの国々），46章：奴隷史，47章：アフリカ年表.

48章～103章：ヨーロッパ史，古代ギリシャ史，ローマ帝国史.

下　巻

104章～159章：ヨーロッパ史，フランス，120章：フランス年表.

160章～185章：アメリカ史，186章：中米史，南米史.

本書の内容はヨーロッパ史及びアメリカ史に多くの頁が充てられていた。日本についてはペリー来航から開国までが記載されている（第31章）さらに，1862年の文久遣欧使節に触れている。

Universal Historyが英語教科書として使用されていたことは，「パリー氏万国歴史字書」4冊，中村愿訳述，攻玉社閲，中村氏・松井氏蔵版，（明治16年4月，表1）が出版されていたことからも分かる。本書はUniversal Historyの単語帳であり，例えば

Geography 地理学ト，Called 名付ケ，Is ラル
What 処ノモノヲ

と記載されている。この字書を頼りにして「万国史」を解読したのである。

同一の書籍が，明治2年から21年にかけて17人により翻訳されていた。明治初期の翻訳では直訳であり，翻訳文章は難解であるが，明治20年代になると，翻訳技術が向上して，翻訳文が読みやすくなっている。翻訳文の単語に右付きで“英語のかな書き発音”が記載されている。例えば「実用万国史直訳，岡本信訳述」では，「総説」に「イントロダクション」と右付き文字で記している。この様に表現している書籍が多数ある。これは訳書と原書Parley's Universal Historyと照らし合わせて読むために，この様な事が行われていた。

さらに，幼童のために，翻訳書で使用されている言葉の字引があり，例えば「巴来万国史字解　全」奥田栄世編輯には，漢語で記載された言葉を分かりやすい言葉で表現していた。独習書や独案内書，英語階梯があり，自習のために利用することを考えてのものである。

明治2年に芝木の翻訳・出版した「パーレー万国史」は，その後，大いに注目されて，我国の英学史の上でも注視さる書籍となり，複数の英学者による論考がある。明治初期に我が国で本書が大量に輸入・購入され，多くの教育機関で教材として採用された書籍であったことがその背後にあり，その注目度も桁違いであった。

Ⅵ. 考　察

本論文では前半分では，加賀藩壮猶館翻訳方に務めた芝木昌之進の生涯―幕末から明治初期―を辿る試みを行った。後半部では，芝木が翻訳したピー

ター・パーレイの万国史について歴史的に考究した。芝木について，今井は詳細な事柄は分からないと記述していたが（今井，1969，1989），この程，安政4年（1857）に芝木が壮猶館・翻訳方で鹿田文平のもとで英書の素読を行っていたことが明らかとなったことから[史料1, 2, 4]，彼のその後の軌跡を辿ることが可能になった。加賀藩・壮猶館にいた蘭医師達の藩末から明治初期の活動の軌跡はよく調査・研究がされているが（金沢大学医学部記念誌編集委員会，2012），それ以外の人々のその後の軌跡を辿ったものは多くはない。

芝木は慶応2年（1866）に加賀藩から長崎への留学生に撰ばれ，有名な英学者可礼之の英学塾で英語を学習した[史料3]。明治初年に芝木は加賀藩中学東校に教師として勤めていたことが，同校の生徒番付表から明らかになった。同校には，訓蒙加に小池精一，沼田采江（悟郎）（啓明学校，石川県専門学校教諭），坂井巻耳（森巻耳）（啓明学校，石川県専門学校教諭），また，教師に長野桂二郎（岩倉遣外使団・団員）らも勤めていた（図1．中学東校英学生徒番付）。

一方，安政4年の横浜開港により，わが国に輸入される英仏書が増加した。無論，加賀藩の英仏書の買い上げ冊数も大きくなった。その結果，英仏書の解読能力を持った人材が必要となり，英語を手がけていた芝木の存在が認められることになった。

芝木は藩が新たに購入したPeter Parley's Universal Historyを目にした。当時，藩はGoodrichの歴史関係の著書も多数購入していたが，本書が子供向けの歴史・地理書であったことから，芝木はこれを撰び，早速，翻訳をした。明治2年（1869）に彼の翻訳書『ペートル・ハルレー氏地球万国暦史』が出版された。ところが，この程この翻訳書を調査した限りでは，石川県内には現存せず，遠く佐賀県立図書館の鍋島家文庫にのみ架蔵されていることが明らかとなった。本図書館へ問い合わせたところ，本書は残念ながら破損が激しく閲覧不可との回答であった。本論文の論考のためには，本書の画像資料は必須であることから，本書の所有者である鍋島報效会に願いでて，撮影の許可を得た次第である。本書は大坂，東京，京都，金沢の書肆で販売され，当時最初に翻訳・出版された万国歴史書であることから注目され，多くの藩校で英語教育のために採用されたと考えられる。本書の内表紙には（図2－2，左頁），「鍋島家蔵」と「弘道館蔵書印」の印影があり，明治初期に佐賀藩の藩校「弘道館」で英語教育に本書が使用されていたことを示している。

他に先駆けて，芝木が翻訳したPeter Parley's Universal Historyは，その後，次々と直訳書が出版されていた（表1）。その多くが明治16年から明治21年の6年間に集中し，その出版数にして19種にのぼっていた。これは明治初期に，本書の翻訳書が小学校で歴史教育に使用され，さらに，中学校での英語教育に使用されたためであった。特殊なものでは，『畫入万国史略字引』，『万国史独稽古』などは，本書の解読のための英語辞書があり，さらに幼年者のために，直訳書の漢語の検索書『巴来万国史字解』までがある。明治9年に牧山耕平翻訳『巴来萬国史』上下，が文部省蔵版翻刻として出版され，この翻訳書が小中学校での歴史教育に使用されていた。さらに多量の原書の輸入が行われ，これを英語の学習のテキストとして使用されていた。例えば，旧佐賀藩元開成校の「書籍保存書」には，「パーリー万国史　七十四本（五十本欠）」と記載され，百冊以上の万国史が購入されて，約200名の中学生の英語教育に使用されていた（佐賀県教育史編纂委員会，1989）。さらに翻訳本「巴来万国史」が小学校の読物に指定されていた。

この様な状況のもとで，多数の関連書籍が刊行されていたのである。無論，本書はGoodrichが幼年者向きと考えて出版した，親しみやすいピーターパーレイを著者名に使用した歴史と地理の啓蒙書である。

当時の書肆の様子は，次の文章に語られている。

> 「明治五，六年頃迄は東京市中，原書の本屋僅に二三軒，横浜に一軒あるのみにして，即ち日本橋釘店の丸善，向両国の島屋，築地の某外人店，横浜にケルン等是れあり。其店も殆ど見本として一種一，二冊あるのみ。同一種類のものが五冊十冊と揃いたるものは，字書かパーレーの万国史，コロネルの地理書位の外は，皆無というも過言に非らず」

とあり，明治初期に洋書を入手することがまだ困難であったことが分かる（慶応義塾図書館史，1972，第1章より）。

石川県立図書館に架蔵されているPeter Parley's Universal History（1872）には「金沢学校」の蔵書印

が捺印されていることから，この書籍は芝木が明治2年（1869）に翻訳・出版するために使用した書籍では無い。我が国にPeter Parley's Universal Historyをアメリカで購入して最初に持ち帰った人物は，福沢諭吉であると云われている（植村，1980a）。これは慶応3年（1867）の渡米の際であり，慶応義塾が明治元年に製作した「慶応義塾之記」の附録の日課表には，「一，パルレイ氏コンモンスクール万国歴史会読」，「一，ペイトルパルレイ氏万国歴史素読」と記載されていた。この時に購入され，使用された書籍は1866年前後に出版された版であると考えられる。この時に持ち帰った書籍を加賀藩が入手していたかどうかについては分からない。加賀藩旧蔵洋書の中には，横浜及び大坂のハルトリー商会より購入したものもあり（板垣，2006），輸入商社を通じて慶応年間に本書を入手していたに違い無い。『日本西洋史学発達史』に本書について記載されているが，その内容及び書名は誤りである（酒井，1968）。

芝木は金沢での英和字典の編纂にも関与していた。明治19年までに我が国で刊行された英和字典は殆どが，東京，大阪であり，その他では横浜からであった。これらに加えて金沢から2種類の英和字典―『広益英倭字典』および，『新撰英和字典』の刊行が行われたのである。この事は『新撰英和字典』の自序に，「西洋学術ノ駸入以来我国各府県中二三ヲ除ク外，未多見ノ一事ヲ挙行スルニ至ルハ満足ニ勝リザルナリ」と記している。これらの字典の語彙収集と編纂に芝木が関わっていた。前者は明治7年に刊行され，後者は明治18年に刊行された。特に『新撰英和字典』では語彙数が増加されて5万有余であった。特に学術用語の語数が目立っていた。例えば，Acid, n. 酸類，酸気，nitric acid,（化）硝酸，tartaric acid,（化）酒石酸，acidify-ied-ing, vt. 酸化性トナス，Acetic acid,（化）酢酸，Acetic fermentation,（化）酢酸発酵，が掲載されている。所が，「この書は数年の後には，其の時世の進歩に善く応用が出来無くなるであろう」と述べている。これは総ての字書，字典にあてはまる言葉である。

井波は序文で，本書の編纂は，焚膏継晷（ふんこうけいき）ー昼夜を分かたず精励するーの連続であったと記して，その作業が過酷で在ったことを示している。

先に記した様に，金沢で英和辞書の編纂の快挙が為された最大の要因は，藩政期に壮猶館で貯えられた多数の外国語辞書の存在である。本書の発行部数は限定500冊であったが，明らかになっている現存部数は僅かになっている。

藩政期に壮猶館の翻訳方に務めていた人々は，兵学，医学などの分野で外国書から情報を得ていた。廃藩後，彼らは語学の知識或いは医学の知識を活かして，教師や医師となっていた。芝木もその一人であり，私塾の語学教師で生計を立てていたことが今回の調査で明らかになった。本論文の著作にあたり，今井のすぐれた著述に依存するところが多かったことを附記する。

謝　辞：芝木昌之進訳述『パーレー地球万国暦史』の写真撮影にご支援を頂きました，藤口悦子氏，長野遏氏，堀勝治氏に深く謝意を表する。

文　献

日置　謙，1919：金沢市教育史稿．石川県教育会金沢支部会刊，第六節 道済館，36p.

石川県，1940：石川県史第3編，第3章　学事・宗教，第1節　学校，185p.

石川県教育史編纂委員会編，1974：石川県教育史第1巻．石川県教育委員会，547p.

石川県立図書館編，1972a：石川県史料第2巻，政治部，学校・衛生，明治4～7年．180p.

石川県立図書館編，1972b：石川県史料第2巻，政治部，学校・衛生，明治4～7年，309-310.

石川県印刷工業組合，1968：石川県印刷史．p.20，p.62.

今井一良，1969：明治初年金沢出版英和辞典の研究．著者出版，35p（明治7年6月に出版された英和辞書『広益英倭字典』についての研究．今井の調査によれば，見出し語数と熟語などの数の合計は39,731と報告されている）.

今井一良，1979：加賀英学の系譜，石川県啓明学校開設の前後．英学史研究，**10**，109-119.

今井一良，1989：『新撰英鮒字敝』と井波他次郎．英学史研究，**22**，1-13（本論文には竹中龍範本印所蔵書と記載されているが，ネット検索では，実践女子大学図書館に1冊架蔵と記されている）.

井波他次郎纂訳，1886：新撰英和字典．雲根堂主人，牧野一平，発兌（明治19年，石川県立図書館蔵）.

板垣英治，2004：石川県専門学校洋書目録．金沢大学資料

館史料目録2，金沢大学資料館.
板垣英治，2006：加賀藩旧蔵洋書総合目録．金沢大学資料館史料叢書2，金沢大学資料館.
板垣英治，2007：加賀藩旧蔵洋書の目録作成．日本海域研究，**38**，21-66.
板垣英治，2012：金沢大学の淵源．石川県啓明学校，110-134（小池精一は『英国金融事情』（Lombert Street：A Description of the Money Market, (1873). Walter Bagehot, (1826-1877) の翻訳・講述者であり，杉中利平次により筆記されていた．英国ロンドンの金融街の中心Cityに於ける貨幣市場の様子を解説した書物である）.
金沢大学医学部記念誌編集委員会編，2012：金沢大学医学部創立150周年記誌．第1部，通史，第1章・第4章，1-70.
金沢市編集委員会，1973：稿本金沢市史．学術編　第2，318-319.
慶応義塾図書館史，1972：第1章，13p.
川崎源太郎，1888：石川県下商工便覧．石川県下加賀国金沢区廼部，金沢市立玉川図書館・近世史料館蔵.
小峰正意訳，1887：万国史直訳（明治20年）．近代デジタルライブラリー.
堀達之助，1867：英和対訳袖珍辞書．蔵田屋清衛門，江戸，石川県立図書館蔵（本書には「加州海軍局文庫之記章」及び「東校蔵書掛」の印記がある）.
中村愿訳述，1883：パリー氏万国歴史字書4冊．攻玉社閲，中村氏・松井氏蔵版（明治16年4月），近代デジタルライブラリー.
牧野一平（良太郎），1885：金城新誌　第25号，明治18年11月7日（『新撰英和字典』の広告，石川県立図書館蔵）.
松田　清，1987：鹿田文平旧蔵ハルマ『蘭仏辞典』．京古本や往来，**37**，p.3.
宮永　孝，1999：幕末・明治の英学．法政大学，学術機関リポジトリ.
大屋愷敬・田中正義・中宮誠之共編，1874：廣益英倭字典（明治7年），金沢：石川県立図書館蔵.
Peter Parley's Universal History, on the basis of geography, Ivison, Blakman, Talors & Company, New York, 1872. 石川県立図書館蔵（ピーター・パーレーの万国史，原本（1872），「金沢学校」の印影在り．“Universal History”は，Nathaniel Hawthorneに依頼して，彼の姉の助けを借りて書いた原稿を，Goodrichは買い上げて，ペンネームを使用して出版した．初版は1837年に出版した）.
酒井三郎，1969：日本西洋史学発達史，吉川弘文館，38p.（パーレーの『万国史』の原著名が，A political history of the world, ancient and modern, for the use of schoolsであると記載しているが，本書の標題頁に記載されたものでなく，これは誤りである．また翻訳書として次の書籍名が記載されているが，ネット検索では確認することが出来無い．1．寧静学人『西洋夜話』（5冊）明治元年，2．吉田屋蔵梓『パアリー万国歴史』（4冊）明治2年，3．橋爪貫一『巴礼氏万国史略』（10冊）出版不詳）.
佐賀県教育史編纂委員会，1989：佐賀県教育史　第1編，佐賀県.
芝木昌之進訳，1869：ペートル・ハルレー著『地球万国暦史』（明治2年），佐賀県鍋島報效会，佐賀県立図書館蔵.
植村清二，1980a：丸善百年史，日本近代化のあゆみと共に．第1編，丸善出版，122-124.
植村清二，1980b：丸善百年史，日本近代化のあゆみと共に．第1編，丸善出版，p.137（『万国史』1874年版の第31章「日本の歴史」から，「日本人もまた久しく隔離して生活して来た諸国民の歴史について，知らんことを欲しているようである．それはいま諸君が学びつつあるこの小さい書物（万国史）の発行者は，遠い日本から，しばしば二百・四百・六百という冊数のパーレー『万国史』の注文を受け取るからである．」と記載されている）.
和田文次郎編，1919：金沢墓誌．加越能史談会（金沢）出版，53p（芝木昌平と記載されている）.
米田昭二郎，2011：日本マッチ工業の開拓者，清水誠．日本海域研究，**42**，77-94.

史　料

1　『御親翰集一』，金沢市立玉川図書館・近世史料館蔵，万延元年頃，188頁，芝木昌之進の定番御歩，壮猶館翻訳方原書素読方など御用仰せ付け（申・12月26日）.

2　同上，195頁．文久2年戌12月，鹿田武大夫（文平）から不破彦三あての文書.

3　「於西疲長崎執行人交名並雑記」，金沢美術工芸大学附属図書館蔵．加賀藩から藩費留学生を長崎へ派遣，英学者何礼之の私塾にて英仏語修行する.

4　『御手留抄　一』加越能文庫　特16，明治2年，64頁，金沢市立玉川図書館・近世史料館蔵.